

大宮アルディージャ サポートーズミーティング

司会：皆さま大変お待たせしました。それではただ今より「2014 大宮アルディージャサポートーズミーティング」を始めさせていただきます。私は本日の司会進行役を務めさせていただきます大宮アルディージャ事業本部広報グループの小沼と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、サポートーズミーティングを始める前に本日のメンバーをご紹介させていただきます。それでは、皆さまから向かって右より代表取締役社長、鈴木茂。

鈴木(茂)：皆さま、こんばんは。鈴木茂です。

司会：チーム統括本部長、鈴木徳彦。

鈴木(徳)：こんにちは。鈴木徳彦です。

司会：強化部長、松本大樹。

松本：皆さま、こんばんは。松本です。

司会：取締役事業本部長、久保田剛。

久保田：久保田です。本日はよろしくお願いいたします。

司会：取締役管理本部長、東山雄二。

東山：東山です。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

司会：以上のメンバーでミーティングを行わせていただきます。

それでは、本日の流れを簡単にご説明させていただきます。まず社長の鈴木茂とチーム統括本部長の鈴木徳彦より、2014 シーズンのクラブの方針とトップチームについてご説明させていただきます。その後、質疑応答とさせていただきます。こちらは 19 時までを予定しております。

次に取締役事業本部長の久保田より、事業全般についてご説明させていただきます。その後、質疑応答とさせていただきます。こちらは 19 時半までを予定しております。

残りの時間 20 時まで、今回のミーティングを通じた全般のお話について質疑応答のお時間とさせていただきますと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、これよりミーティングに移りたいと思います。初めに、社長の鈴木茂より 2014 シーズンのクラブの方針についてお話しさせていただきます。よろしくお願いいたします。

鈴木(茂)：皆さま、改めまして大宮アルディージャの鈴木です。2014 サポートーズミーテ

イングにおいでいただきまして誠にありがとうございます。今シーズンのビジョン、考え方についてお話しする前に、皆さまに、まず今年の戦いを含めてお話を差し上げたいと思います。

昨シーズン、結果として皆さまに喜んでいただける結果を出せなかったことについて、本当に私も残念で、皆さまに失望感を与えてしまったということについて、誠に申し訳ございませんでした。お詫びを申し上げます。私もいろんな努力はしてきたつもりではありますが、結果としてああいう結果になったというのは、すごく反省をしております。

その反省に基づいて、今回しっかり取り組んでいこうということで新たな体制で臨む、もう既にご存じだと思いますが、13日から(チームは)スタートさせていただいています。選手についても、昨日は新体制発表記者会見ということで、既に公式的にもスタートしています。

昨年をもう一度振り返りますと、春から7月まではいい成績でいたのですが、皆さまご存じだと思いますが、いろいろ事情があって監督を代え、結果上昇を継続するだろうという意味合いを含めて、私は(監督交代を)判断しましたが、結果として8連敗を2度、14位という成績で終わりました。

これについては、今シーズンの新体制に向けての反省も含めて、どこが悪かったかということ、私なりに考えさせていただきました。やはり監督を代え、それは理由があって代えた訳ですが、最終的にやはりチームとしての統率だとか規律であるとか、そういうものが欠けていったと、結果として私が判断したことがああいう結果に繋がったのだろうとすごく反省しているところです。そういう意味で皆さまに失望を与えたということについて、先ほども言いました通り、お詫びをいたします。誠に申し訳ございませんでした。

しかし、そういう反省を踏まえて先ほども言いました通り、新たな体制、後ほどまたビジョンの中でお話をさせていただきますが、新たなチーム統括本部長、新たな監督、新たな強化部長を求めましてスタートしております。皆さま、今シーズンも3月1週目から開幕いたします。引き続き応援・支援・サポート含めてよろしくお願ひしたいと思います。

引き続きまして、「未来を、ともに。」のビジョンの今シーズンの取り組みについてお話をさせていただきます。申し訳ございませんが、ここから着席してお話をさせていただきますと思います。

「ARDIJA VISION 2020 未来を、ともに。」、3年前にこちらでスタートをしています。今年4年目になります。具体的に今シーズンはどんなことを引き続いてやっていこうかというものを、皆さまに少しお話をさせていただきますと思います。

まず1点目です。私どもは2011年からホームタウンへの貢献ということで、街並みのオレンジ化の充実などを含めていろんなことをやってきています。武蔵野銀行様の研究所に調べていただいたのですが、2008年には大宮アルディージャの経済効果というものは50億円でした。昨年2013年、大宮アルディージャの経済効果というのは、実は60億円になっています。5年間で10億円増えました。もし後半の成績の落ち込みがなければもっと経済効果が出たんだろうと思っています。

ホームタウンへの貢献というのは、いろんな活動も含めて貢献するつもりですが、やっぱり一番ホームタウンへの貢献ということで喜んでいただけるのは、経済効果であるんだろうと思っています。そういう意味で、しっかり成績を残していくということが一番のホ

ームタウンへの貢献なんだろうということを、つくづく感じております。

私、先月のシーズン終了後から12月・1月を含めて、経済界の方、自治会の方、商店街の方と毎日お話をする機会がありました。その中でもやはり経済効果ということで、チームの成績(の向上)=みんなが喜び、明るくなるし、かつ経済効果に繋がるというお話をされます。まったくその通りだろうと思っています。そういうところでもやっぱりチームをしっかり強くしていくということが大事なんだと思います。

また先ほどちょっと触れましたが、街並みのオレンジ化という意味では、大宮区と大宮東口商店街独自で「KAYA ORANGE」ということで、氷川神社の朱色を使って、大宮オレンジというブランドを立ち上げるというような取り組みも、昨年から行われるようになりました。そういう意味でもホームタウンへの貢献という点で、(大宮アルディージャが)少しずつ浸透させていただいていると(思います)。そういう活動も今後続けていきたい。また特にトップの選手をいろんなイベントに出していただきたいというような話も強くご要望いただいています。そういうものについても、今年はできるだけ積極的に取り組んでいこうと思っています。

何よりも経済効果で、繰り返しになりますが、大事なのはやはりお客さまをいかに集めるかということです。今のスタジアム、最高に入っても13,000人です。後ほど詳しいスタジアムの状況については事業本部長の久保田から話はさせていただきますが、やはりスタジアムをどれだけ大きいスタジアムにするかということをいろいろ進め始めています。

皆さまご存じだと思いますが、大宮東口の再開発というのが既にスタートしつつあります。大宮区役所、中央デパート等の改修というか、建て直しというか、それを契機に東口を全体的に少しずつ開発していこう、その流れの中でやはり町の1つのシンボルとして新たなスタジアムと言うんでしょうか、大きいスタジアムが欲しいというような動きにも少しずつなっています。

ただ、やはりこれも盛り上がり的大事ですので、タイトルを取るということをマイルストーン・行程の中で、やっぱりしっかり考えていかなきゃならないのだろうなと思っています。今(入場者数)11,000人平均で(経済効果が)60億円です。これが3万人入れば単純計算ですが、150から180億円ぐらいの経済効果になります。そういうのも含めて今年はホームタウンへの貢献ということで、手順を踏んで進めていく最初の年なんだと思っています。次(のスライドを)お願いいたします。

次の総合型スポーツクラブという考え方も、少しずつ今私が考えているのですが、その辺については、今年を取り組みのスタートにしたいと思っています。皆さまご存じだと思いますが、アルディージャサッカースクールは、埼玉県内に11スクールあります。以前は2,200名ぐらい(生徒が)いました。今、実は1,600名ぐらいに落ちています。

いろいろな事情もございます。プロチームのスクール以外に、いわゆるスクールをメインにした事業者が出てきています。ですが、大宮アルディージャの特色を生かしたスクールを充実していけば(生徒を)増やせると思っています。そういうものを核にして総合型スポーツクラブというものを目指していきたいと思っています。

特に、将来スタジアムがいつできるかの問題はありますが、指定管理者制度なども視野に入れつつ、さいたま市長に会長をやっていただいておりますアルディージャ後援会とも連携を取って、総合型スポーツクラブをNPOで立ち上げる方向なども今年からいろいろ検

討していきたい。これもホームタウンへの貢献などにも繋がるんだろうと思っています。

私ども、チーム結成が15年前ですが、野球教室やグラウンドゴルフなどのことをずっと続けてやってきました。そういうものも含めて総合型スポーツクラブの1メニューとして全体的に取り組んでいくこと、最近では介護予防ストレッチ教室とヨガ、いわゆる予防・保健ですね。そういう取り組みもしています。そういうものも含めて総合型スポーツクラブを目指していこうということを今進めてやっています。

次が3点目です。「トップチームの強化」。昨年のシーズンを踏まえて今年新体制を整えたんですが、一番考えたのはアルディージャの伝統というものです。もう少し言いますとNTT 関東から続く埼玉での伝統と歴史です。その伝統を継続しつつ新たな風を入れるといえますか、そういうことが必要なんだろうということを考えました。

ゼネラルマネージャー・強化部長・監督と(昨年)代わっていただきましたが、それを新たな方に選任する時に、そういうことを中心に考えて経験豊かな鈴木徳彦チーム統括本部長、また実績も経験も豊かな大熊監督、生え抜きの強化部長である松本、そしてコーチ陣については皆さまご存じだと思います。そういうものを念頭に入れて考えました。それをもとにチーム統括本部長・監督と私はいろいろな話をさせていただきました。コーチ陣、選手についてはすべて鈴木(徳)チーム統括本部長・強化部長に任せて今回チームを立ち上げ、スタートしました。

今回、私が昨年の反省を踏まえてやったのは、やっぱり粘り強く・規律正しく厳しく戦うチームが必要なんだろうなど。必要というか、そういうチームがいいというか、そういうチームにしたいという思いはあり、それは伝えました。そういう形で昨日発表したチームが出来上がっているということで考えていただきたいと思います。

それと、トップチームの強化と、やはり経営的なものも考えなくてはだめだと思っています。高いお金で移籍金を払って(選手を獲得して)活躍してくれればいいのですが、活躍してくれないとなるとやはり失うものがすごく多いです。一昨年ラファエルとキム・ヨンゴンが移籍することで、移籍金収入は増えました。

ただ獲得した選手が(予想の通り)働かない場合は、逆に移籍金を失うことに(等しく)なってしまいます。そういうことも含めて今後チームの強化をどうするかというのは、高いお金を払ってでも、やはりそういう選手を取りに行くべきなのかどうなのか、しっかり判断してやっていかなくちゃならないだろうなど。そういう意味でも、チーム統括本部長の鈴木(徳)には非常に期待している部分もあります。そういう実績を、鈴木(徳)さんは東京ガス、FC東京、水戸を含めて経験されていると思っています。人選した1つの理由というのはそこにあります。

それと、4点目になりますが、トップチームの強化で一番大事なのは、将来を見据えてのアカデミー(の充実)だと思っています。皆さまご存じの方もいるかもしれませんが、実はU-13からU-18の世代別代表に、うちのアカデミーから7名昨年選ばれています。U-15についてはアルディージャが初めて5月のJFAプレミアカップで(国内)タイトルを取り、日本代表になってマンチェスターへ行きました。

また、同じチームが高円宮杯全日本ユース(U-15)の大会で、昨年12月28日に大阪・堺で、なんと浦和レッズジュニアユースと決勝を戦い、負けてはしまったのですが、そこまで伸びてきています。ユースチームについても、プリンスリーグ関東1部で3位になれば(ユ

ース世代のトップリーグである)プレミアリーグへの挑戦権を獲得できたのですが、最終戦で負け4位という形となりました。でも、下(の順位)にはマリノスがあったり、浦和レッズがあったり、アントラーズがあったり、そんな中でしっかり戦ってくれています。

そういうアカデミーを、やっぱり充実させていかなくちやならないということで、実は今年から、志木のクラブハウスを全寮制にしようということで進めています。全国からいい選手を集めて寮で生活をさせ、(近隣の)高校と提携してやっていこうと。今回、その責任者を前GMの岡本に任せました。岡本はアマチュア時代からずっとサッカー界で、そして埼玉で活躍しています。実は、サッカーというのは、(地域の)サッカー協会があったり、学校があったり、そういうところといかに連携するかが、特に若い年代は、一番大事なところなんです。今、U-15世代が強くなってる、(世代別日本代表に)選ばれてる。もう少し言いますと大山が今回(トップチームに)上がりました。その時(大山がジュニアの時に)彼(岡本)はその(育成部長の)仕事をやっていました。今後アカデミーを充実していくにあたっては、やっぱり岡本が適任だろうということで、やっていただくことにしました。実は(その岡本は)今日出席する予定だったのですが、シンガポールに行ってます。シンガポールでいわゆる国営スポーツクラブの様な、約10種類のスポーツをクラブで立ち上げて、学校の子供に教えるという組織がシンガポールにあります。そこからうちのアカデミーの仕組みが非常にいいので、いわゆるノウハウをもらえないかという話があり、実は一昨年から連携を取ってやっています。中村順(育成部長)がその責任者でやっていたのですが、中村順はご存じの通り、なでしこジャパンのヘッドコーチとして稼働していて、特に今年については女子ワールドカップのアジア最終予選の年で、佐々木則夫氏のためにもしっかりやってもらいたいので、あまり稼働を取れません。そのため、やはりそれを受けてやれる人間は岡本しかいないということで、シンガポールに行かせまして、今日ここには出席しておりません。

それ以外に今(話が)来ているのが、県内の高校を含めて3つぐらいの高校からアルディージャのノウハウが欲しい、チームを強くしたいという話があります。やはりそうしますとトップチームも大事ですが、アカデミーのところもしっかりやっていかないとだめだろうということで、そういうことも(岡本に)してもらいます。また中学生まで頑張った人間が仮にユースに上がれなかった場合はそちらの高校に行ってもらおうとか、そういうこともやっぱり今後やっていくと良い、そういうことがトップチームの強化にも繋がるんだと思っています。そういうことも今年から高木にクラブハウスができたことで、(志木クラブハウスの活用など)いろんなことができるだろうということでスタートしています。

そういうことを含めて、今シーズンの目標を今年は勝点53以上、アジアを目指すということでACL出場となる3位以内を目指したいということでスタートしています。13日に全選手に練習開始前のミーティングで私からこのことについて、確かに今まで達成した目標ではない、だからこそ高い目標に向かってやっていこうじゃないかと、認識合わせをして練習を開始し、かつ、昨日の記者会見でもオープンにさせていただきました。ちょっと長くなりましたが、昨シーズンを振り返っての今年の取り組みについて、お話をさせていただきました。以上です。ありがとうございました。

司会：それでは続きまして、今シーズンより新たに就任いたしましたチーム統括本部長、

鈴木徳彦より改めまして皆さまへのご挨拶と 2014 シーズンのトップチームについてお話しさせていただきます。お願いします。

鈴木(徳)：こんにちは。今、ご紹介いただきました鈴木です。ほとんどの方が初めてお会いする方だと思いますし、今日こういうお休みの時にここまで足を運んで来てくださって、恐らく日頃から熱心にチームを応援してくださっている皆さまなのだと思います。本当にありがとうございます。

最初に、こちらの仕事をお受けするにあたっての経緯、あるいは今までの私の経歴など少しだけお話しさせていただきたいと思います。もともと私は東京ガスのサッカー一部でプレーヤーをやっておりました。ちょうどその頃、当時の NTT 関東のサッカー一部は、僕らよりも数段レベルの高い所でありまして、ちょうど僕が現役終わるぐらいかな、そのころにやっと追いつけたかなというような、そういうレベルでやっておりました。

大宮サッカー場で公式戦をやったこともありますし、その後、NTT 関東さんも東京ガスもちょうど JFL で戦う場が一緒になって、ちょうどその頃 Jリーグに J2 を作りますということになりました。その時にやはり同じ企業のサッカー一部と言うんですかね、東京ガスも東京ガスという会社の福利厚生の中でサッカー一部を保有していて、NTT 関東さんも同じということで、そういった意味では非常にその当時、どうやったら企業のサッカー一部を Jクラブに変えていくのかなんていうのを、いろんな意味でその当時の監督さんと会って相談させていただいたりとか、そういうこともやってきました。そういった意味で勝手ながら個人的には非常に親近感があるというか、そういったクラブです。とはいえ、まさかこういう立場になれるというのは夢にも思っておりませんでした。昨年の暮れに鈴木社長からお話をいただきまして、大変ありがたいことだなということで、(チーム統括本部長を)させていただけるということになりました。

ただ、昨年までは水戸ホーリーホックで強化の仕事をしておりまして、大宮アルディージャさんは隣に(今座っている)松本強化部長もいますし、彼は今までずっと大宮の強化をして他にもいろいろスタッフいるということもありますし、水戸の方はなかなかそんなに潤沢な人材がいる訳じゃなかったもんですから、すぐにこっちに合流してということができずにいろいろ多々ご迷惑をかけていたところもあると思いますが、昨日の新体制発表記者会見から、ここからはもう腰を据えてこちらの方でやっていける状況になっています。どうぞこれからよろしく願いいたします。じゃあ、ちょっと失礼して座らせていただきます。

この最初の画面なんですが、これは先ほど社長がお話をしてくださった大宮のビジョンの中の「チームの未来」に関わるところで、これは今年からということではなく、私が聞いている限りではビジョンを作った時から、まずはこの J1 の舞台上で上位に定着して常時優勝争いできるチームを作っていくんだと、これは大宮だけじゃなくて、全チームこう思っていると思います。

そういう中で、先ほどの勝点 53 以上という目標も含めて、みんながやっぱり勝点をどれだけ積み足すかということでやるわけですから、非常に難しい目標であると思います。ただ、我々もこういう場でやるからには、やりがいのある目標だと考えてチャレンジをしていきたいと思っています。

その下に書いてあります「育成と他のチームからの移籍によるバランス」というのも、我々だけじゃなくて日本のサッカー界として、どこのクラブにとっても非常にこれは大事なことだと思えます。とりわけポスマン・ルール、皆さまもお聞き及びかと思えますが、その影響で日本の移籍制度も数年前に変わっています。どちらかと言えば今は、言い方によっては選手の方が(立場が)強いような状態にはなっています。

そういう中で大事なのは、やはり自分たちのクラブに愛着を持っている選手、そういう選手がどれだけいるか、というところになるかなと思っています。そういった意味でも育成のところから、あるいは今まで松本強化部長が携わってきた新卒のスカウトだとかそういったところもこれからも力を入れながら、さらには他のチームからの移籍でも負けないためにどうするかということは、常に考えながらやっていかなければいけないことだと思っています。

先ほど申し上げましたように大変申し訳ないながら、私、正直言って昨年の大宮の公式戦をずっとよく見ていたという訳では全然ございません。ただ、今できることというのは、まずは数字で振り返るとどういうことなのかと。(こちらは)クラブの方がまとめてくれた表でございます。ただ、数字でサッカーを語るもんじゃないというのは、多分ここにいる皆さまはよくご存じだと思いますし、ただ簡単な指標の1つとして今日の話のネタじゃないですが、私はこういう見方をしました、ということだけ、一旦お話しさせていただければと思います。

ずっとこの2009年から(の勝点)39、42、42、44、45。ある意味、これ決して正直言って高い勝点だとは、皆さまも多分思ってないと思います。クラブとしてもそうだとは言えないと思います。ただ、見方によっては非常に安定して、ここまでは必ず取っているというのは1つ言えるかなと思います。私、FC東京にいた時に正直言うと大宮さん、簡単に言っちゃうと人様のチームのことなんかあまり見る余裕はないんですが、一言で言うと「いや、落ちないよな〜。」という(印象でした)。というのは、やっぱりそれだけ安定した何かってというのはあるんじゃないのかなと。

自分事になりますけど、カップ戦を優勝したかと思えば、次の年にJ2に降格してしまうチームだってあるぐらい今のJ1というのは非常に厳しい優勝争い、残留争いの戦いの中で、少なくともあるレベルまで安定した力をここ何年間か発揮してるというのは1つのベースになってきてるのかなとは思っています。次、(のスライド)お願いします。

そういったことも踏まえましてちょっと簡単に「今シーズンに向けてのポイント」というのを、これで全てという訳ではありませんが、今日まずお話しできる中でということで簡単に3つほどまとめさせていただいています。

クラブ力の向上。この「クラブ力」という単語は大熊監督自体もよく使っています。やっぱりチームが強くなるというのは、これは僕の個人的な考えですが、チームが強くなるというのはチームの選手の質があります。それから、指導の質もあると。もう1つは環境の質。この環境の質の中には色々な、今大宮はすごく素晴らしいクラブハウスもできていますけれども。そういったクラブハウスのことを含め、練習をやるピッチのことを含め、それから、ベースとなる会社も含め、会社がどれだけいろんな意味でチームをサポートできる体制なのか、というのは、チームが活動しやすい予算を割けるかどうかも含め、それから、試合運営に関わるところでチームにストレスないようにやれるかどうかも含め、広

報的な意味でも適切な範囲での広報ができるかどうかも含め、そういうことが、全てが合わさってチームの試合の結果になるんじゃないかと思っています。

そういった意味で今、先ほちょっと申し上げましたけど、チームの基盤というのは、今までしてきたものという固まったものがあると思っていますので、それをそれぞれが、1人ひとりが私自身も含め、あるいは強化も含め、チームも含め、さらにはクラブのいろいろなスタッフも含め、更に自分たちが上増しをしていくと。そういうことでクラブ全体の力をやっぱり向上させていかないと、チーム自体というのにも強くなっていかない。そういうところも含めて、みんなで一緒にやっていきたいなと思っています。

それから2つ目、「育成→トップ→日本代表」というのが書いてあるんですが、先ほどもう社長が大分この辺の話をしてくださったところと、それから正直言いまして、まだこの点に関して、こここのところの責任者である岡本さんと十分にディスカッションをしてきた訳でもない中で、正直言うと社長がどういう話までされるかよく分からない中で、これを作ってるんですが、まったく社長と同じで、本当に選手を育てていくってことを必ずやっていかないといけないなと。それがひいてはトップ（チーム）の成績に大きく影響するところがある。トップはトップのことをやってればいいやということじゃないと私は思っています。

具体的には、じゃあ、どういう関わりをすればいいのかというのはいろんなやり方があると思うんです。これをやりますって、今の私は申し訳ないのですが、言えませんが。少なくとも育成のところまで、さらには今、東洋大学さんとも提携をして指導者も出して、今年はそこから良いセンターバックも入ってくる状況もありますから。ゆくゆくは、例えば、Jr.ユースまで大宮でやっていました。高校は先ほど社長がおっしゃったようにどこかの提携している高校に行って、さらに大学は東洋大学に行きました。ずっと大宮の指導者が同じエッセンスでやっていきますよ、と。そういう選手がまたトップに帰ってくるんだとすれば、ユースから直接トップに上がる選手と同じだけ価値があるんじゃないのかなとも思っていますし、もしトップに上がれなくても、そういう選手たちがいろんな他のチームに行ってもいいと思うんですね。でも、そういうことでやっぱり大宮ってしっかりした選手を育ててくれるなっていうことを認められるような存在になっていけば、自然とまた選手たちも集まってくると思いますし、自然とトップの選手も集まってくるんじゃないかと思っています。

そういった意味で育成のところを大事にし、トップでさらに切磋琢磨して、聞くところによるとまだA代表の選手というのはいないと聞いていますんで、在任中に何とか日本代表の選手が活躍する。それをここにみんなに応援に行くと、そういった場を作れるようにしていきたいと思っています。

それから、最後3つ目は少しだけピッチ上に近い話。実際にどういう戦いをするかということに関しましては、これやっぱりどういう選手がいて、監督がどういうふうと思うかということだと思うんですが、よく育成年代からトップチームまでの一貫指導体制がどうのこうのというのがあると思うんですが、よく言われるのはアヤックスはジュニアのチームからトップまで同じようなシステムでやるとかそういう話もありますが、私はそこまで、ほんとにそんなことできるのかなって、どっちかというと思ってます。

やっぱりそれぞれのカテゴリーにいる監督さんの色だったり、特徴だったり、そこにい

る選手たちの特徴によってやるべきことって違ってきてもいいのかなと。ただ、プレーをする上での最低限の気持ちというか、マインドというか、そういうのは1つそのクラブはそのクラブで持ってないといけないんじゃないかなとは思っています。

そこで、出したキーワードが「アグレッシブ」と「ハードワーク」という2つなんです。たまたまこれ、監督の大熊がアグレッシブという言葉をよく使います。守備においてもアグレッシブに守る。守るというよりもボールを奪いに行くんだと。そういった積極性のある、それを感じさせる、それから私のハードワークというのは本当に最後まで力を尽くす、頑張り切る。そういったことは、少なくとも勝つ負ける関係なくやれるチームでありたいと思っています。そこのところはたまたま大熊監督とは昔も一緒に仕事をしたこともありますので、共通の認識で持ちながら今年臨んでいきたいと思っています。

正直言います、私自身にとってはJ1のチームに関わるというのは、3年ぶりなんです。昨年2年間は水戸におりまして、その前はFC東京におりましたけれども、ちょっと現場と離れた所だったもんですから、そういった意味では非常に現時点で情報不足のところもありますが、幸いにも非常に強化部内にも優秀なスタッフもおりますし、今まで大宮を支えてきた人たちも周りにきちっとサポートしてくれてるっていう心強い状況がありますので、皆さまの期待に応えられるように全力を傾注したいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

司会：それでは、これまでお話しさせていただいた内容、「2014 シーズンクラブ方針とトップチームについて」の質疑応答に入らせていただきたいと思います。こちらの議題については19時までの質疑応答とさせていただきたいと思っています。また、お手元に皆さまから事前にいただきましたご質問をまとめた回答案を記載させていただいておりますので、お目通しいただければと思います。

円滑な進行のために何点かお願いさせていただきたいと思っています。まずはご質問のある方は挙手にてお願いしたいと思います。私をご指名させていただきまして、皆さまによく聞こえるようにマイクをお持ちさせていただきますので、よろしくお願いいたします。また、ご指名させていただいた方以外の発言はお控えいただきますようお願いいたします。なお、大変恐縮ですが、ご質問の内容がミーティングの趣旨にそぐわない場合はご質問をお断りする場合がございますのでご了承ください。最後に、時間の都合でご質問はお一人様3分以内とさせていただきます。どうかご協力のほどお願いいたします。

それでは、ご質問のある方、挙手にてお願いいたします。

質問者1：ユースのチームと今トップチームのお話が先ほどあったんですけれども。今やっている大宮のユースのサッカーとトップチームのサッカーというのは違うものをやられているんですか。今後、寮ができてスタッフも集めて、選手も集めてやっていくサッカーというお話があったんで。何かいま僕の中の頭の中には、ユース以下の下部組織にもトップのサッカーを浸透させていくのかなという認識がちょっとあったんです。で、高校とも連携するという話だったんで、そこにそぐわなくてもいい選手はいると思うんで。そぐわれない選手はそこにちょっといてもらうみたいな発想が、何かその辺がちょっと腑に落ちないんですけれども。トップとユースと連動性をいま感じないんですけれども、そ

の辺ってどうなんですか。

鈴木(徳)：適切な答えになるかどうか分からないのですが、先ほど申し上げましたように決してトップチームと同じサッカーをすれば、ユース、Jr. ユース、ジュニアがいいかとはあまり思っていません。本当は僕、逆に言うと、育成のサッカーがトップのサッカーのあり方を決める方がいいのだと思うんですね。

それはちょっとさて置いたにしても、やはりそこにいる選手たちがどうやったら将来いい選手になっていくか、そのためにどうしようかということ、それぞれのカテゴリー、それぞれの育成の段階でやってもらえばいいかなと。ただ、さっき言ったようにプレーヤーとして臨むにあたってのマインドというのは、しっかりと同じものを持ってやってもらいたいなと思っているということです。

ちょっと申し訳ないのですが、今代表して私が話してしまいましたが、先ほど申し上げたようにクラブ内で議論したことじゃなくて、私の個人的な見解だということでご理解いただければと思います。

司会：よろしいでしょうか。

質問者1：ありがとうございます。

司会 それでは、他にございますでしょうか。

質問者2：今日はこういう場に参加させてもらってほんとに嬉しく思ってます。鈴木(チーム)統括本部長の方から話が出ました通り、トップチームの選手たちがやっぱりチームに愛着を持ってくれるようなチームづくりにしていただきたいと。これは僕らの細かい、僕なんかサッカーをやった経験もないんであれなんですけれども、ただ、いちサポーターとしては愛着を持って気持ちのある試合をしていただきたいなと、それだけお願いしたいなと思ってます。

今回、昨日新体制の発表があったメンバーは、社長の方から見てチームに愛着があって最後までやり切る選手だということでよろしいでしょうか。その点だけ返事をいただきたいと思います。

鈴木(茂)：選手の選定にあたっては私が選択したわけじゃないのですが、必要なところは大熊さんが直接会って決めたと聞いています。先ほど言いました通り、鈴木徳彦さんと大熊さん、アグレッシブ、ハードワークというところの気持ちも合っていると鈴木(徳)さんがおっしゃった通り、大熊監督も気持ちは多分同じです。したがって、愛着ある選手ということも大熊監督も目指していると私は見ています。そういう意味で監督が面談なりして決めた選手ですので、愛着を持って頑張ってくれるんだということで私は信用していますし、確信しています。

司会：よろしいでしょうか。他にございますでしょうか。

質問者 3：私、毎年大体参加させてもらっていたんですけども、しゃべるのは今日が初めてです。社長の方から昨年の反省というような話を聞いたんですけど、ここにいる多分サポーターみんなですね、昨年、もしかしたら優勝できるんじゃないかと思ってた人がかなり多かったと思います。社長の説明はよく分かったんですけど、その説明があまりちょっと触れられてなかったんですが、連敗が一番痛かったと思うんです。その中断期間も含めて適切な補強はしていたのかというのが1つと、あと、負けがやっぱり込んできたところから、チーム状態が明らかに試合を見てても悪いなって感じてたんですよ。その中でやっぱり小倉監督に代わって、あの後ずっと連敗も続いて、逆にあそこまで負けてて何で引っ張ったのかなというところが、多分サポーターの中でもかなり監督の手腕のところっていうのは疑問に思ったというところはあったと思うんです。今、社長の話の中でその辺の小倉監督についての説明がなかったことについて、ちょっと聞きたいのが1つと、あと、昨日新体制が発表されたんで、メンバー見てもかなり期待ができるメンバーだと思います。ただ、あと外国籍選手の去就とか、今だとカルリーニョスも入ってなかったし、この辺のところはどうなっているのか。ぜひ強化部長とか、お話し聞けたらと思います。

司会：それでは、社長お願いします。

鈴木(茂)：カルリーニョス選手の件については強化部長なりからお話しさせていただきますが、連敗している中での小倉監督の継続の話について、ちょっと私から考え方を話させていただきます。

ー昨年ですかね、ベルデニック(元監督)に代えて、ちょっと古い話になってしまうんですが、ベルデニック(元監督)に代えてなかなか結果が出ない中で、ロンドンオリンピックが終わって、小倉さんに来ていただきました。いろんな形で河本選手も補強したりしたんですが結果が出て、そのまま昨年の春ですよ、結果が出て、やはり彼の指導力ということをお私はずっと信用していました。事情があってベルデニック(元監督)は代えたんですが、そのときに適任者は小倉だという判断をして決めたわけです。

その決めた私からすれば、結果は出るだろうとずっと思っていました。途中でニールとか和田とか、必要な補強をすれば大丈夫だという判断も私はしていました。小倉さんをずっと信用しながら、というとおかしいんですが、小倉さんがあれだけ1年にわたって結果を出し続けてくれた人なので、後半の連敗のときも必要な補強はした訳ですので、そうやって結果は出てくれるんだろうと私は思ってやっていました。そういう意味で言うと、皆さまから言うと、小倉さんに対してもう少し早い決断をした方がよかったんじゃないかという方は、いらっしゃるかもしれません。だけど私の立場でそういう判断をしました。

ただ、今回じゃあそのまま小倉さんでもよかった、今シーズンも小倉さんでもよかったんじゃないかという話はあるんですが、やはりそこはもう一度、先ほど言った本当に粘り強く、私から見ると粘り強く戦えたかどうか、規律あるようにしっかり選手が頑張れたかということ、最後に2勝しましたが、ずっと見ていた結果、やはり来シーズン任せるにはそういうところが改善できないんだろうということで、小倉さんを今シーズン継続しないということで決めさせていただいて、新たな体制に移行したということです。

それではカルリーニョス選手の件については、松本強化部長からお願いします。

松本：カルリーニョス選手の話をしてもらう前に、簡単に自己紹介をさせていただきます。今年から強化部長をさせていただくことになりました松本です。よろしくお願いします。知らない方もいらっしゃると思いますので、簡単に紹介の方をさせていただきます。アルディージャには、ガンバ大阪をクビになりまして(笑)、2000年(アルディージャの)J2時代なんです、当時の清雲GMと佐々木則夫強化部長に拾われ、2004年までJ2でプレーしていました。あまり試合には出ていなかったんですが、オフ・ザ・ピッチの方では一生懸命頑張っていました(笑)。

J1昇格が決まり、佐久間さんにクビを切られ(笑)、普及の方で2年間、スクールのコーチをさせていただきました。2007年から強化部、スカウトに入りまして、今、後ろにアンバサダーの塚本泰史も来ていますが、彼が1年目のスカウトの仕事になりました。今年、浦和に行きましたが青木、当時フロンターレの菊地も私の仕事でした。

7年間、スカウトをさせていただいて、昨年度末、この強化部長という重責のある役を社長からいただきまして、何とかクラブのためになれるのであればと、させていただくことにしました。昨年、今ありました通り、皆さまの期待に応えることができなかった結果になったことに対して、本当に申し訳なく思っております。ただ、もう過去のことなので、ぜひ前向きに、私たちは今年頑張りますので、応援していただければと思っております。よろしくお願いします。

それでは、カルリーニョス選手のことについてなんですが、今、カルリーニョス選手に興味を持っている複数のクラブがあります。彼のお意思もありますので、今現在、交渉中というところであるのが事実です。というところなんですが、よろしいでしょうか。決まり次第、ご報告させていただきます。

司会：ご質問2点ございましたが、よろしいでしょうか。それでは、次の質問に移らせていただきたいと思っております。

質問者4：クラブの目標についてなんですけれども、勝点53以上、そしてアジアへというところなんですけれども、率直な感想としては、ちょっと曖昧だなと思いました。勝点53というのは昨年の目標ですし、それから、ましてやACLに行くためには、勝点で言うと10以上というぐらい、積み上げなければいけないことになると思っていますので、二重な目標がある感じになります。勝点53達成すれば目標達成なのか、ACLが目標なのか、ちょっと曖昧かなという気がしていますので、ちょっとその辺について、ご意見聞かせていただければと思います。

司会：ありがとうございます。

鈴木(徳)：私たち、チーム側の理解で説明させていただきます。勝点53というのは、昨年も確かにこの目標だったと聞いています。2013年、それが実現できていないと、過去の実績からもまだ53というのは到達していないのであれば、昨年の目標であった数字をきちっ

とまずクリアするというのが第一目標であり、これをクリアすることによってさらに勝点を上積みすることで ACL が見えてくると、そういう考え方をしています。そういう理解の下で、ただ、我々、現場の方としましては勝点 53 だけじゃなくて、常にどこのチームも同じだと思うんですけど、優勝を目指して、大熊監督も言ってましたけれども、すべての試合、勝つつもりで臨むという姿勢は当然だと思います。よろしいでしょうか。

質問者 4：ACL だけを目指にするのではだめなんですか。

鈴木(徳)：先ほど言いましたように、まだ去年でいうと(勝点)45しか取れてないチームに、去年の目標である53というのをまずはしっかりと、それを超えないと多分 ACL はあり得ないと思いますので、それを超えることが1つのマイルストーンであり、それを超えた上で ACL まで届くように、あるいは優勝できるようにやっといこうと、そういう理解をしています。

司会：よろしいですか。すいません、最初の議題ですが、お時間 10 分延長して、7 時 10 分までご質問を受け付けたいと思います。

他にご質問ございますでしょうか。

質問者 5：最初に社長の方から、昨シーズンの反省というものを聞かせていただいたんですけども、ベルデニック体制ではいったい何がだめだったのか。そして、何が良かったのか、それを総括して、今季、大熊監督に何を望むのか、というのを明確にしていきたい。そして、ベルデニック体制で悪かった部分というのが、何を反省したのかというのか、いまいちサポーターに入ってきていないが、何を反省して小倉さんにしたのか。何を反省して小倉さんから大熊さんにしたのか。そういう点でもクラブとしての力が非常になかったと思っています。それに関してお答えをいただきたいと思います。

鈴木(茂)：ベルデニック(元)監督のメリット・デメリット、あと何で小倉さんにしたか、あるいは大熊さんにしたかということで、先ほどもちょっと言ったんですが、鈴木淳(元)監督を一昨年ですかね、5月に代えざるを得ないというときに、やはりその時も守れない・失点が多い、そして得点ができず、攻めのサッカーなんですけど、得点が取れず守れない。その時に当時岡本 GM とどの監督にするかと決めたときに、やはりしっかり守れるということを中心に、負けないと言うんですか、守れるということで行こうと。その時に、すぐあの時点で代われる監督というのは、監督の候補は常にいるのですが、すぐに代われる監督という、ある意味限定される場所があって、実績があるということで考えると、ベルデニック(元)監督がすぐに来てくれる、守れる、と。守れるということ、あの方も非常に厳しいところがあったり、過去、市原、名古屋、仙台でどういう関わり方をしたかについても全部リサーチはした上で採りましたが、守れる、しっかり立て直してくれるということで、これがメリットだろうということで採りました。

ただ、ただという言い方はおかしいんですが、なかなか結果が出ませんでした。(その後)小倉さんが来てくれました。結果が出ました。今で言うと、コミュニケーションがなかなか

かやはり、何て言うかな、あまりこれは詳しくは言えない話なんですけど、やはり選手に対するアドバイスの仕方だとかも含めて、なかなかコミュニケーションが取れない部分、目指しているサッカーがしっかり伝えられない部分みたいなところがあって、そこに小倉さんが入ったことで、あの小倉さんのコミュニケーション能力というんですかね、選手をしっかりと鼓舞するようなことで結果が出たと。デメリット・メリットで言うと、守備を含め戦術的なところで言うと、ベルデニックは非常にメリットの的なところはありました。ただ、結果選手をどう動かすかということで考えたときには、やっぱり小倉さんのメリットがすごくそこにありました。したがって、先ほど言いました通り、昨年の監督を決めるときに、小倉さんのそのメリットもあるので、監督にということにした訳です。ただ、難しいところは、やっぱりメリットはあるんですが、小倉さんは小倉さんで結果が出なかったというところがあった。それは最終的には、何度も言いますが、選手が90分通して粘り強く戦えなかったとか、やっぱりファンサービスなんかも含めて規律を持ったチームに、最後は規律も少し失われたというようなところになったということですね。今言ったことを全部、全部という言い方はおかしいのですが、監督を大熊さんをお願いするときに、そういう話も差し上げました。そういうチームに戻したいと、そのために受けてもらいたいという話はしました。それと先ほどあまり言わなかったのですが、「Ardija Vision 2020」で、今後10年間、スタジアム改修も含めて私たちはやっていきたいと。総合型スポーツクラブも含めて、アカデミーの充実も含めて、鈴木(徳)さんも含めてお二人に話をしました。それで受けてもらいました。チームを強くすることも非常に大事なことなのでお願いしたのですが、それ以外にも「Ardija Vision 2020」を達成するためにいろんなメニューもあるので、その行程ごとにお話をして、その力も借りたいと。それを達成するために力を借りたいんですという話をして、大熊さんにも受けていただいて、鈴木(徳)さんにも受けていただきました。ご理解いただければありがたいんですが。

司会：よろしいでしょうか。

質問者 5：クラブとしての力がないんじゃないかって、僕の方からちょっと質問させてもらったんですけど。監督の人事もそうですし、いつ解任するのか、結論を出す出さない、そういう段階でも、本当にクラブとしての力が無かったんじゃないかという意味を含めて、さっき質問に入れさせてもらったんですけど。社長を含め、フロント各自、クラブとしての方向性というか、本当に力が無かったなと個人的には感じました。そういった点で、2014シーズンに向けて、各々がどういう気持ちを持っているのか、そして、2013年何がダメだったのかというのを、もうちょっと明確に教えていただきたいんですけど。

鈴木(茂)：はい、分かりました。明確にということ、私の思いをちょっとお話しさせていただきます。今回、監督の話、クラブ力という話も含めた話をさせていただきますと、会社経営というのでしょうか、今までずっと人生の中でいろんな仕事をやってきていますけど、私はあまりトップダウンはやりません。下から聞いた話、ボトムアップで出てきたことについてみんなと議論をして進めるというやり方を、私はずっとやってきています。それが果たして今回良かったのかという反省はしています。もう少し言うと、いろんなボトムア

ップの意見が出てきたことについて、それはだめだと、私が言う通りやれ。もう少し言うと、自分が感じたことを、ボトムアップではないにもかかわらず、これやれ、あれやれというやり方がある意味必要だったのかなという気はします。全てボトムアップで来たことを、全て仕事のやり方として、私はできるだけそういうやり方をやってきていたんですが、やはりそうじゃない時にも必要なんだろうという反省はしています。それが、クラブの力になるのであれば、やり方は変えていきたいと思います。10人中8人が良ければそれでいいという判断を、そういうやり方を、私はできるだけやっていました。でも、その判断で駄目な場合は多分あるのかもしれませんが。そういうところはすごく反省していました。ですから、私はすごく今悔いを残しています。結果、そのやり方でやって結果が出るかどうか分かりません。ただ、私の仕事のやり方が、その判断の仕方がまずかったことはあるんだろうかと、ボトムアップでなくてもよかったんじゃないのかということがあります。そういうことを、ボトムアップのときと、トップダウンのやり方を使い分けることで、クラブ力をアップしていきたいと私は思います。

司会：すいません。時間の関係でこの議題、最後の質問とさせていただきます。他にございますでしょうか。

質問者 6：シンプルな質問なんですけど、トップチームのコーチで黒崎コーチ、ここ数年頑張っていたらと思うんですけども。新潟の監督までやられた方が埋没しているのかなと思ひまして、ボトムアップ、本人の一番の問題だと思うんですけども、これがあればの話だと思うんですけども。少し環境を変えて、どこか違うところで勉強されて、また大宮に戻ってこられて、また今までの新潟のノウハウ、プラスアルファで新たに勉強されたノウハウを、また大宮に反映することができればいいのかなと思うんですけども。トップチームのコーチについて、ちょっと人事の面も含むと思いますし、言いづらいとは思いますが、その件についてちょっと質問したいと思います。それでやっぱり他のサポーターの方々も、今まで新潟の監督をやられた方がそこにいて、何なのかなという、やっぱりそういう疑問点もありますので、その辺ちょっと質問させていただいたら、お願いします。

鈴木(徳)：今、おっしゃるような考え方、それはおかしいって言うつもりは何にもありません。まさにそういう考え方も多々あると思います。ただ私ども、たまたま今シーズン、私も初めて大宮にお世話になる身であり、監督の大熊も初めてであり、それから、渋谷コーチはたまたま以前大宮で活躍はしてくれていましたが、やはり何年間かのブランクがあると。それから、フィジカルコーチも初めてのコーチだと。そういった中で、昨年度の状況を全くわからないでやるよりも、昨年度の状況を少しでも理解している人間が関わってくれるというのは、我々にとってプラスだろうという判断を優先しています。ですので、黒崎コーチはおっしゃる通り、監督までやられたそういう人材ですので、やっぱりサッカーは、僕の持論ですけど、サッカーも人づくりだと思いますので、そういった意味においても、違った道というのもこれから視野に入れられないといけないと思いますが、まずは今年、トップチームの体制がどうあるべきかということを考えてときに、彼の力は必要だと、そういう判断をさせていただきましたので、ご理解いただければと思います。

質問者 6: ありがとうございます。決して私、黒崎コーチの関係者ではありませんので、あしからず。ありがとうございます。

松本: すいません、一ついいですか。強化部長として話をさせてください。黒崎コーチについては、大熊監督とも話をし、今、大熊監督、渋谷コーチ、海本コーチと、全部元ディフェンスの選手なんですね。ということもあって、やっぱりフォワードの黒崎コーチはプレイヤーとしても実績がありますし、監督としても実績がありますので、そういった意味でバランスを考えながら、あと人間性というところも考えて、判断させていただいておきます。以上です。